

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書の訂正報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第4項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成22年12月28日
【四半期会計期間】	第36期第2四半期（自平成22年7月1日至平成22年9月30日）
【会社名】	シンワオックス株式会社
【英訳名】	SHINWA・OX CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 橋本 幸延
【本店の所在の場所】	大阪市住之江区北加賀屋五丁目7番30号
【電話番号】	大阪06（6683）3101
【事務連絡者氏名】	管理本部本部長 本多 宏毅
【最寄りの連絡場所】	大阪市住之江区北加賀屋五丁目7番30号
【電話番号】	大阪06（6683）3101
【事務連絡者氏名】	管理本部本部長 本多 宏毅
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 （大阪市中央区北浜一丁目8番16号）

1【四半期報告書の訂正報告書の提出理由】

平成22年11月15日に提出いたしました第36期第2四半期会計期間（自平成22年7月1日至平成22年9月30日）に係る四半期報告書に添付しております独立監査人の四半期レビュー報告書に、一部原本と異なる箇所がありましたので、これを訂正するため、四半期報告書の訂正報告書を提出するものです。

2【訂正事項】

独立監査人の四半期レビュー報告書

3【訂正箇所】

訂正箇所は__線で示しております。

（訂正前）

追記情報

継続企業の前提に関する注記に記載されているとおり、会社は前連結会計年度において、6期連続の経常損失となり、当第2四半期連結累計期間においても104百万円の経常損失を計上した結果、2,519百万円の債務超過となっている。また、主要金融機関に対しては、平成22年6月1日付で堂島ホテル株式会社を新設し借入金を当該会社の承継したことを機に返済条件の変更、期間の延長を要請し、一部実施にいたっている。当該状況により、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象または状況が存在している。当該状況に対する経営者の対応等は当該注記に記載されている。四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成されており、このような重要な不確実性の影響は四半期連結財務諸表に反映されていない。

（訂正後）

追記情報

継続企業の前提に関する注記に記載されているとおり、会社は前連結会計年度末において、6期連続の経常損失を計上し、当第2四半期連結累計期間においても104百万円の経常損失を計上した結果、2,519百万円の債務超過となっている。また、主要金融機関に対しては平成22年6月1日付で堂島ホテル株式会社を新設し、借入金を当該会社に承継したことを機に返済条件の変更、期間の延長を要請し、一部実施にいたっている。当該状況により、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しており、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる。なお、当該状況に対する対応策及び重要な不確実性が認められる理由については当該注記に記載されている。四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成されており、このような重要な不確実性の影響は四半期連結財務諸表に反映されていない。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成22年11月12日

シンワオックス株式会社

取締役会 御中

アクティブ有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 柴田 洋 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 名和 道紀 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているシンワオックス株式会社の平成22年4月1日から平成23年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成22年7月1日から平成22年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成22年4月1日から平成22年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、シンワオックス株式会社及び連結子会社の平成22年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間の経営成績並びに第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

追記情報

継続企業の前提に関する注記に記載されているとおり、会社は前連結会計年度末において、6期連続の経常損失を計上し、当第2四半期連結累計期間においても104百万円の経常損失を計上した結果、2,519百万円の債務超過となっている。また、主要金融機関に対しては平成22年6月1日付で堂島ホテル株式会社を新設し、借入金を当該会社に承継したことを機に返済条件の変更、期間の延長を要請し、一部実施にいたっている。当該状況により、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しており、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる。なお、当該状況に対する対応策及び重要な不確実性が認められる理由については当該注記に記載されている。四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成されており、このような重要な不確実性の影響は四半期連結財務諸表に反映されていない。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しています。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。